

目標：幼児の体の発達の特徴について理解する。

3年()組()番

氏名()

課題① 教科書P. 186～187を参考に()の空欄を記入し

幼児の発達と個人差

幼児期は、心身の発達が目覚ましい時期です。子どもの健やかな成長には、子どもが(ア)する家族や大人の適切な援助が必要です。幼児の発達を理解するうえで、(イ)豊かな存在である幼児一人一人と向かい合いましょう。そして、それぞれの(ウ)や(エ)に気づき、幼児が自ら育とうとする力を支えることが大切です。発達の早い・遅いや、興味・関心の違い、得意・不得意など、それぞれの個性を尊重しましょう。

幼児の体の発達

一人一人(オ)はありますが、幼児期の体の発達は目覚ましく、体の基礎となる(カ)の発達とともに、(キ)が伸びて、(ク)が大きくなります。また、消化吸収や呼吸の機能も発達し、特に(ケ)と神経系の機能は著しく発達します。

幼児の体型は、(コ)に対して(サ)が大きく、(シ)が取りにくいので、(ス)したり転落しないように注意が必要です。

運動機能

幼児の体や運動機能の発達には一定の(セ)と(ソ)があります。体の発達に伴って、歩く、走る、跳ぶ、投げるなどの運動がだんだんできるようになります。また、手足を使った(タ)動きができるようになり、正確さを増してきます。発達には個人差がありますが、運動機能の発達によって(チ)範囲も広がり、(ツ)が刺激されて、心も豊かになります。発達に応じて(テ)に体を動かせる環境を用意することが大切です。

生理的機能

幼児は成人と比べて呼吸数、脈拍数が多くなっています。また、(ト)が高く、体温を調節する機能が未熟で汗をかきやすいため、十分な(ナ)の補給が必要です。そして疲れの回復や次の活動へのエネルギーを蓄えるために、多くの(ニ)時間を必要とします。

幼児期の身長と体重の発達

体や運動機能の発達

4歳で身長は生まれた時の約(ア)倍に増加

生まれた時の約1.5倍

時期	生まれたとき	1歳	4歳
身長	約50cm	約75cm	約100cm
体重	約3kg	約9kg	約15kg

1歳で生まれた時の約(イ)倍

4歳で体重は生まれた時の約(ウ)倍に増加

★ア～ウに数字を記入しよう。

★教科書P. 187図5を参考に矢印を記入しよう。
またア～ウに適する言葉を記入しよう。

(ア)がすわる
↓
(イ)部を支える
↓
(ウ)ができる。
↓
伝え歩き→一人歩き

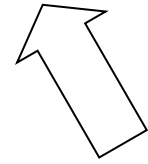
腕全体
↓
手先が発達
↓
指先が
器用になる

ひざ 膝たちになるとちょうど幼児期の子どもたちと同じ目線になります。

作り方



- ① 外側の切り取り線に沿って、はさみで切り取る。
- ② 中央の3つの○の部分をはさみで切り抜く。
(○の中央部分に切り込みを入れてから切るとうまくいくよ)
- ③ 6か所の直線(差し込み口)に切り込みを入れる。
- ④ 折線をすべて山折りする。
- ⑤ 完成図を参考に組み立てる。



のぞく方向

チャイルドビジョンを使って、幼児の世界を体験してみよう。

- (1) まずはのぞいてみましょう。チャイルドビジョンをつけたり、はずしたりして大人と子どもの視界の違いを体験してみよう。気づいたことは？

- (2) 急に自分の前に人が近づいて来たとしたら・・・

- (3) 本を読んでみると・・・

- (4) 家の中を膝立ちして歩いてみよう。どのようなことが危険になりそう？

- (5) この体験をいかし、周囲の大人が幼児に接する時にどのような工夫ができますか？

課題はこれで終わりです。組み立てたチャイルドビジョンは家に保管しておいてください。課題提出は5月29日(金)です。